

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年12月6日
タイトル	日本一の生産量「くわい」を初出荷しました！2019
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年11月11日（月）JA福山市川口グリーンセンターで、生産者や報道機関が集まり「くわい」が初出荷されましたので取材しました。

「くわい」は生産量日本一の福山市の特産物で、芽が出る縁起物としておせち料理に欠かせないものです。

早朝よりくわいが次々に運びこまれました。3Lから2Sの「こつぶちゃん」まで大きさによって分けられ4キロの箱で662箱が出荷され、芽がしっかりと艶々した「くわい」が勢揃いしました。検査員がひと箱ずつ検査し重さを量り「合格」の印を押しておられました。



その後初出荷を祝って式典があり、くわい出荷組合の喜多村組合長が「7月の豪雨、8月の高温、9月の相次ぐ台風による日照不足で生育が心配されましたが、10月に晴天に恵まれ全体的に小玉傾向ですが身がしまりホクホクとおいしいくわいとなっていると思います。」と挨拶されました。また「土地改良区に出向き農業用水の確保をお願いしたところ、しっかりと配水すると力強く言っていただきましたので、みなさんは用水を無駄にしないよう節水に心がけて大事に使いましょう。」と言われました。

式典後、生産者に出荷基準を実物のくわいを使って説明されました。青色が薄くピンクがかったものや形がいびつなもの、芽がこけたものは加工用になります。収穫・洗浄・選別と女性も作業をされる方が多いそうで生産者の奥様も多く参加され熱心に聞いておられました。これから1ヶ月半の収穫をやってやるぞと生産者の意気込みを感じました。

今年の生産者には3名の新規就農された方がおられ、福山市農協の佐藤組合長が「新規就農の方がおられ、日本一のくわい生産をこれからも盛り上げてくださることを期待しております。」と挨拶されました。



くわいの収穫は、水を張ったほ場へ入り水中ポンプの水圧で掘り手作業で掬って洗浄や選別をします。生産者のみなさんには、これから年末に向けて最後の出荷まで収穫作業も益々過酷になる中、風邪などひかないよう健康管理には気をつけて頑張してほしいと思いました。

水土里ネット福山では、くわい収穫のために水利権を得ている期間の農業用水の安定確保はもとより、農業用水や土地改良施設の重要性とともに生産量日本一の福山市の特産物である「くわい」に関する情報発信することにより21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。